

令和5(2023)年度
南和広域医療企業団南奈良看護専門学校
【一般】入学試験問題

国語総合

注意事項

- 1 試験監督の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 2 試験問題は、問題1から問題15までです。試験時間は、50分です。
- 3 問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄には正確にマークしてください。
- 4 解答は、①～⑤の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
- 5 マークは、解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。
- 6 試験中に問題の落丁・乱丁に気づいた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
- 7 問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しは禁止します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

第1問 次の各問いに答えなさい。

問題1 次の傍線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選べ。

- (1) ① 定石(ていせき) 通りに行えば負けることはなかった。
② 頭を冷やすために夜の街を彷彿(はいこう)する。
③ 選挙のために各地を遊説(ゆうぜい)していた。
④ 予想外の出費で、家計が破綻(はじょう)しそうだ。
⑤ 鎌倉時代に建立(けんりゅう)されたお寺がある。
- (2) ① またたくまに市場を席卷(せつかん)した。
② ガイドラインの遵守(そんしゅ)を徹底する。
③ 逼迫(あっぱく)した状況に陥らないようにする。
④ 資金を集めるために奔走(はんそう)した。
⑤ 彼は勝ち負けに拘泥(こうでい)する人物だ。

問題2 次の傍線部の漢字や語句の用法が正しいものをつつ選べ。

(1) ① 昨日の試合は調診でホームランがファウルになった。

② 彼の書いた小説は不朽の名作と言われている。

③ 募集をかけたところ弱冠の人数が集まった。

④ 検査着を受け取り更衣室に案内してもらった。

⑤ 病気が介抱に向かってきたので減薬した。

(2) ① 子どもがお菓子を買ってもらえずに大舞台を踏んでいる。

② 第一志望の学校に合格して、彼女は醍醐味になった。

③ 今日の試合は一筋縄の差で相手に負けてしまった。

④ 大きなプロジェクトも、ついに独壇場をむかえた。

⑤ 宝くじが当選したので、しばらくは左団扇で暮らせる。

問題3 次の傍線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選べ。

(1) 政権が変わって、内閣が革**シ**ンされた。

- ① 度重なる不幸で**シ**ン身ともに疲れていた。
- ② **シ**ン類の結婚式に出席するために、服を新調した。
- ③ 部屋の契約を更**シ**ンするために不動産屋に行く。
- ④ 技術が**シ**ン歩して世の中は便利になった。
- ⑤ **シ**ン災に備えて、食料や水を準備しておこう。

(2) 複数の交通**キ**カンを使う。

- ① 無人探査機が月から地球に無事**キ**カンした。
- ② 胃は食べ物を消化する重要な**キ**カンだ。
- ③ **キ**カン限定の展覧会だったので混雑していた。
- ④ 彼の**キ**カン支炎は治まって元気に生活をしている。
- ⑤ 彼女は内定をもらい行政**キ**カンで働いている。

問題4 次の慣用句、四字熟語または故事成語の意味として正しいものを一つずつ選べ。

(1) 我田引水

- ① 自分に都合がいいように物事を行うこと。
- ② 月日とともに絶え間なく進歩していくこと。
- ③ 形は立派だが、実際には役に立たないこと。
- ④ 初めは勢いがよいが、終わりがふるわぬこと。
- ⑤ 古い習慣やしきたりにとらわれていること。

(2) 立て板に水

- ① 自分に都合の悪いことは触れないこと。
- ② 弁舌が流暢で、よどみなく話すこと。
- ③ 自分の力では、どうにもならないこと。
- ④ 間に合わず手遅れになってしまうこと。
- ⑤ 他のことに気を取られて集中できないこと。

(3) 臍はらを噛む

- ① 機嫌が悪く怖い顔をしていること。
- ② 努力したことが無駄になってしまうこと。
- ③ どうにもならないことを後悔すること。
- ④ 弱者も追い込まれると必死の反撃をすること。
- ⑤ あまりにも面白くて大笑いをする事。

問題5 次のうち「工面」と同じ意味を持つ語として正しいものを一つ選べ。

- ① 苦心
- ② 算段
- ③ 特技
- ④ 効果
- ⑤ 督促

問題6 次のうち「過失」と反対の意味を持つ語として正しいものを一つ選べ。

- ① 利益
- ② 上昇
- ③ 故意
- ④ 緩和
- ⑤ 未然

問題7 『放浪記』を著した人物として正しいものを一つ選べ。

- ① 森茉莉
- ② 壺井栄
- ③ 岡本かの子
- ④ 幸田文
- ⑤ 林芙美子

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人びとが幸運な人生のうちにあるときには、教養は、人の精神を秩序づける。その人柄を美しく飾る。ただ、人生は、自然法則に支配される自然現象と異なつて、幸運と不運のうちにある。同じ人間として生まれながら、富裕な家庭に生まれた子どもと貧困な家庭に生まれた子どもでは、「運不運」が違ふとわたしたちは言う。わたしたちは、自分の人生の「生まれ」を選択することはできない。

わたしたち人間が生きているということは、この地球上に命を与えられ、その命を維持していくということを意味している。生まれるということは、命を与えられるということである。与えられるということは受け身である。わたしたちは（ア）からである。

他方、わたしたちは命をつなぐために、たくさんのことを選択する。「選択する」ということは、「選択肢をもつ」ということ、さらに、「選択することができる」ということも意味している。複数の選択肢のなかから選択することができるということは、選択の自由をもつということである。選択の自由があればこそ、わたしたちは、複数の選択肢から自らの意思でどれか一つを選ぶことができる。選択の存在こそ人間が自由であることの根幹に位置しているのである。①

ただ、選択が望みの結果をもたらすかどうかは、選択の時点で分かっているわけではない。わたしたちは選択を誤ることもある。この場合の「誤る」は、数学の解答を誤るという意味ではない。正しい答えを出せなかったということではない。わたしたちは「正しい選択」というが、これは、数学の答えのような「正しさ」ではない。選択には、「よりよい選択」と「より悪い選択」、「どちらともつかない選択」がある。よりよい選択とは、わたしたちの願望の実現をもたらす選択、いわば幸福な状況をもたらす選択であり、そうでない選択が誤った選択、不幸をもたらす選択が悪い選択である。

さらに、よい選択をしたと思つても、選択の状況が変化するなかで不運が生じることもある。② 順調に進んでいた仕事我突然の地震で行き詰まってしまうこともある。わたしたちは、こういう状況を運が悪いとか、不運だとかいう。

選択を誤ること、あるいは、不運に見舞われることで、わたしたちは困難な状況に陥る。困難な状況に陥ってしまうことの分岐点となつた選択のことを「選択を間違つた」とか、「選択が正しくなかった」、あるいは「選択はよかつたが、運が悪かつた」というのである。たしかに、「誤つた選択」「正しくなかった選択」は回避したい。不運な出来事に会つたことも喜ばしいことではない。が、そういう選択をすること、そのような状況を生きていくこともまた、人間が自由であるということに含まれている。

ここで命のように、「与えられているもの」を「所与」と呼ぶことにしよう。わたしたちは、与えられた命のもとで、すなわち、所与としての人生のうちにあつて、選択する自由を与えられている。

◎ただし、人生は、所与と選択だけによって成り立っているわけではない。人生には、所与でもなく、選択でもない広大な領域が広がっている。遭遇という領域である。

わたしたちは、人生のなかで、さまざまな人びとや出来事に出会う。遭遇する。この遭遇もまた「所与としての生きること」と切っても切れない関係にある。所与をスタートとしてわたしたちの人生は進んでいくのであるが、そのなかでわたしたちはそれぞれにさまざまな人や出来事と出会うからである。しかし遭遇は所与ではない。選択でもない。◎

遭遇は選択ではないが、さまざまな遭遇は、他方でわたしたちにさまざまな選択肢を用意してくれる。人生の豊かさは、この所与と遭遇によって用意される選択のなかにある。いろいろな人と出会い、いろいろな出来事に出会う。人との遭遇、出来事との遭遇によってさらにさまざまな選択肢が現れてくる。そのなかの選択によって人生は変化してゆく。選択によって出会うさまざまな人や出来事や風景が人生の彩りとなる。

ただ、遭遇もまた、時として、さまざまな困難な状況をもたらす。自然災害との遭遇もあり、危害を及ぼす人間との遭遇もある。そうした遭遇で迫られる選択に失敗すれば、その結果は不幸な結果になることもある。死に至ることもある。

社会に秩序が存在し、平和を維持している時代にわたしたちが生まれたとすれば、そのような状況もわたしたちの「所与」ということができる。そのような時代であれば、人びとは心安らかに暮らすことができるようにみえる。◎

しかし、そのような時代にも、人は時として困難な状況に遭遇する。戦争がなくても、人びとの間には対立や紛争があつて、ときには暴力に至る。DV（ドメスティック・バイオレンス）といわれる家庭内暴力や「いじめ」もある。

命の危機に遭遇することは不幸なことであるが、幸運に恵まれるだけがよい人生ではない。（ウ）、さまざまな困難を克服すること、そのような克服を実現するための賢い選択を行うことこそが人生を豊かにする。困難な状況にあつてこそ、人間は賢い選択をすることができるからである。

命にかかわる危機のなかで何が人を救うことができるだろうか。アリストテレスの「教養は幸運なときには飾りとなるが、不運のなかにあつては命綱となる」ということばで、わたしがあえて「命綱」と訳したのは、ギリシア語の「カタフィゲー」ということばである。アリストテレスは、幸運なときの「コスモス（飾り）」と不運なときの「カタフィゲー」を対比させた。カタフィゲーは、文字通りには、「避難所」である。「避難所」は、危機のときに身を守る場所であるが、いざというときに身を守る力になるという意味では、むしろ「命綱」と言った方がいいと思う。これは、ほかの人が守ってくれる力という意味ではない。自らの心のうちにあつて、自分を守る力である。アリストテレスはそれが教養だといっているのである。教養は、自分自身のなかに形成された生きるための底力だからである。

わたしが理工系大学で哲学を教えていたとき、理工系学生のもつべき教養の大切さを説く教授たちもたくさんいたが、その多くは、教養を科学

技術者が身に備えるべき「飾り」と考えていた。日本の科学技術者は、海外の学会に出席すると、懇親会のような交流の場で日本文化について質問を受ける。ところが、理工系の研究に専念してきた科学技術者、研究者は、日本文化の価値や意味についての問いに答えることも、あるいは自ら進んで紹介することも、自分の意見を述べることもできない。とくに最近では、日本の文化について造詣のある海外の研究者も増えているので、質問も相当深い関心のもとに発せられる。

だから、「教養の大切さ」を感じた教授たちは、「学生には、教養を身につけさせなければならない。ただ、それは専門で、んが、つた、能力をもつことが前提であるが」という。つまり研究者として成功するためには高度な専門性を、そして、恥をかかないためには教養を、という考えである。このような意味での教養とは、理工系教育に加えるべき文系の知識である。科学技術の専門家であることに加えて、文化的教養人になることも大切だという思想である。

わたしは、教養の本質はもつと別のところにあると考えている。「飾りとしての教養」に対して、わたしは、現代の若者が身につけるべき教養は、枝葉や花としての教養ではないと思っている。それは、「人間の根」としての教養である。これは「命綱」に通じる思想である。

人間を一本の木にたとえるならば、その根っこにあたるのが教養である。一本の木が生長してゆくとき、その生長を支えるのが太い根である。根が丈夫でしっかりしていれば、(エ) 木は大きく育つことができる。幹を太くし、枝を広げ、葉を茂らせ、花を咲かせ、実をつける。地上に伸びた木を地中で支えるのが根である。

木が生長しようとするとき、ときには風が吹く。強風で枝が折れることもある。雷が落ちれば、幹までが割れてしまうかもしれない。日照りが続くときには、地中に深く伸びた根でなければ、水を吸い上げることができない。

木が倒れてしまわないのは、根を大地に深く、また広く伸ばしているからである。根がしっかり大地を踏みしめているからこそ、木は大きくなることができ、嵐にも早かんぱつにも耐えることができる。

「(オ) 教養は人間の根である」というのは、順風のなかにあるとき、その教養は、その人の幹と枝を育て、花を咲かせ、また、実をつけさせる。その人を美しく飾る。他方、人がさまざまな困難に遭遇するとき、その困難に打ちかつ力となって、その人を守る。

教養ある人は、よりよい選択をすることによって身を守ることができ、よりよい人生を実現することができる。よい選択をするためには、わたしたちは、まず目の前に現れてくる選択肢を選択肢として認識できなければならぬ。これができなければ、わたしたちは大切な選択肢を見逃してしまふ。選択肢を選択肢として認識できる能力、複数の選択肢のなかから、よりよい選択肢、さらには最善の選択肢を選択肢するための能力、言い換えれば、最善の選択を支えるのが教養である。

(出典 桑子敏雄著『何のための「教養」か』ちくまプリマー新書)

問題8 次の文章は本文の一節である。挿入個所として最も適切な場所を一つ選べ。

所与と選択とが人間が存在するということの根本的な条件である。

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D
- ⑤ E

問題9 空欄（ア）に当てはまる表現として最も適切なものを一つ選べ。

- ① 自分の誕生を祝福することはできない
- ② 自らの誕生を選択することはできない
- ③ 自身の誕生を悲観することはできない
- ④ 自分の人生を謳歌することはできない
- ⑤ 自らの人生を操縦することはできない

問題10 「選択」について説明しているもので、該当しないものを一つ選べ。

- ① 「選択」においての「正しい」は、固定されたものでなく流動的なものである。
- ② よりよい「選択」によって、自身の願望の実現と幸福な状況が引き起こされる。
- ③ 「選択」は、人間が命をつなぐうえで必要な営みであると位置づけられている。
- ④ 人間は、複数の選択肢から自らの意思に基づいて一つを選択できる自由がある。
- ⑤ 「選択」がもたらす「正しい」と「誤る」の間には、明確な境界線が存在する。

問題 11 傍線部(イ)「所与としての生きていること」と切っても切れない関係」にあることとは、どのようなことか、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 所与として生きているなかで、目の前に現れる選択の機会のこと。
- ② 所与としての人生のなかで、数多くの選択や困難にぶつかること。
- ③ 所与として生きているなかで、困難な選択に迫られる場面的こと。
- ④ 所与として生きているなかで、さまざまな人や事象に出逢うこと。
- ⑤ 所与としての生きるなかで、不運と幸運が交互にやってくること。

問題 12 空欄(ウ)に当てはまる語として最も適切なものを一つ選べ。

- ① むしろ
- ② まるで
- ③ いずれ
- ④ あえて
- ⑤ せめて

問題 13 傍線部(エ)「木は大きく育つことができる」とは、どのようなことか、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 広い知識を身につけることで、多様な分野の人と交流し自己を研鑽することができるということ。
- ② 教養を学び多幸福感を育むことで、よりよい人生の実現の可能性を高めることができるということ。
- ③ 豊かな教養が備わっていることで、困難に立ち向かう力を得て成長することができるということ。
- ④ 困難に陥った経験があることで、不運に見舞われた時に心を持ちなおすことができるということ。
- ⑤ さまざまな文化的教養を深めることで、得た教養を多くの人々に伝えることができるということ。

問題 14 傍線部(オ)「教養は人間の根である」とは、どのようなことか、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 教養が、平時の時は目立たないものだが、万が一の場合に自分の身を守ることに。
- ② 教養が、経験や知識を結びつけて、年月をかけてゆっくりと培われていくこと。
- ③ 教養が、多くの情報を的確に処理して、正しい選択肢を確実に見つけ出すこと。
- ④ 教養が、普段は隠してはいるが、困難時に助けを求める場合に必要となること。
- ⑤ 教養が、自分の願望を実現するたびに、不運を回避する力が養われていくこと。

問題 15 次の本文の内容について説明したA～Eのうち、正しいものはいくつあるか。

- A 誤った「選択」は回避したいと思うが、「人間が自由であること」には「選択」を誤ることや、「選択」はよいが不幸な出来事に出会うことも含まれる。
- B 人生の彩りは、所与と遭遇によって用意される選択肢を選び、時として身の危険が及ぶような遭遇も伴って、人生が変化してゆくことでもたらされる。
- C 「カタフィゲー」を「命綱」と訳したのは、危機的状況において他の人によって守られるのではなく、自らで守る力としての点に注目したからである。
- D 理工系の学生が日本文化についての造詣を重点的に深めて、「教養」を自分の身に備えることによって、よりよい選択肢を見抜く力を学ぶことができる。
- E 教養がある人は目の前にある選択肢を見抜くことができるが、教養を欠く人は目の前に広がる選択肢を選択肢として認識ができずに見逃してしまふ。

- ① 一つ
- ② 二つ
- ③ 三つ
- ④ 四つ
- ⑤ 五つ